

【理事会声明】

歯科医療改善は国民と手をつないでこそ実現 日歯連は政治献金頼みの活動からの転換を！

東京地検特捜部は9月30日、日本歯科医師連盟（日歯連）を巡る政治資金規正法違反容疑（虚偽記入、寄付の量的制限など）で、日歯連前会長の高木幹正氏、同前副理事長の村田憲信氏、同元会長の堤直文氏を逮捕した。

高木氏は今年6月に日本歯科医師会会長に選出されたばかりで、前日歯連会長の身分とはいえ日本歯科医師会の現職会長が逮捕されたことは、歯科界への国民の信頼を失墜させる重大事である。

私たち大阪府歯科保険医協会は、国民の歯科医療の充実と向上、国民の健康を守ることを目的とする歯科保険医の団体として、今年5月9日の第2回理事会で、「政治献金による政策誘導は止め、国民要求に基づく運動で歯科医療の改善を」の声明を発表した。

声明は、「歯科医療の改善は、国民要求に基づく運動を通じて達成されるべきである。日歯連は、歯科医師を代表する団体の一つとしてその責任を重く受け止め、襟を正すべきだ」と指摘し、政府には企業・団体献金の全面禁止を求めた。

日歯連前・元幹部の逮捕という事態を受けて、私たちは改めて、政治献金による政策誘導、団体・業界利益の獲得という仕組みを絶つため、企業・団体献金の全面禁止を政府に求めたい。当事者である日歯連には、国民の信頼回復のためにもきちんとした説明と政治献金頼みの活動からの転換を望みたい。

2015年10月3日

大阪府歯科保険医協会第7回理事会